



教授 / 教育学博士（英語教授法）

ブラッドフォード リー

Bradford Lee

学歴

博士号（英語教授法）－アナハイム大学、大学院教育学研究科。2018年修了
修士号（応用言語学）－ニューキャッスル大学、教育学部。2014年修了
学士号（言語学）－ハワイ大学（ヒロ校）、ハワイ語学院。1999年卒業

経歴

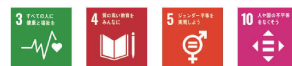
福井工業大学、専任助教 / 専任講師 / 大学院研究科担当
仁愛女子短期大学、非常勤講師（2000年～2012年）
United Friendship Organization Academy、英会話教師

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

講座：英語の発音をマスターしよう！（2019年6月8日）
講座：英語リスニングのスコアの伸ばし方（2022年8月6日）

メールアドレス

bradford-lee@fukui-ut.ac.jp



主な研究と特徴

「発音指導法：リスニング 対 スピーキング」

明示的な発音指導（PI）の提供が第二言語（L2）の音声学習のさまざまな側面を促進することが研究によって示されていますが、ますます多くの学者が、どのタイプの指導が習得に最も影響を与えることができるかを検討しています。本研究では、日本人大学生の間の「聴覚」対「発声」ベースのPI方法の効果を調査しました。

参加者（115名）は、英語の分節的または超分節的特徴に関する2週間の指導を受け、進捗状況は事前/事後/遅延の事後試験デザインで評価されました。

全実験グループでは、発音の正確さが大幅に向上しました。しかし、指導法により、発音の正確さはグループ間および時間の経過とともに大幅に変化しました。調査結果の綿密な調査は、聴覚ベースのトレーニングが、分節と超分節の両方の特徴にわたってより効果的なトレーニング方法であるかもしれないことを示唆しました。

Lee, B., Plonsky, L., & Saito, K. (2020). The effects of perception- vs. production-based pronunciation instruction. *System*, 88巻, 102185号 (頁 1～13). <https://doi.org/10.1016/j.system.2019.102185>

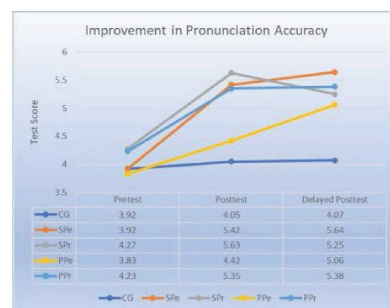


図1. 各指導法による、発音の正確さの向上

「スマホ入力 対 手書き：筆記用媒体の比較」

モバイル学習（mラーニング）またはモバイル支援言語学習（MALL）は、過去20年間にわたって多くの研究の対象になっています。ただし、この分野での実証的な作業では、方法論、対象の機能、およびタスクの種類が異なるため、一般化可能な結論を出すことができませんでした。日本の学校は、モバイルベースの課題を使用し始めているため、本研究では、筆記用媒体（つまり、紙に手書きされた物とスマートフォンでタップされた物）によって、日本の大学生の英作文がどのように異なるかを調べました。

1,449名から手書き、又はスマートフォンで打った英作文を収集しました。その結果、手書きの提出は、スマートフォンで作成された提出よりもかなり長いことがわかりました（ $p < .001$, $d = .54$ ）。更に、その違いは習熟度の高い学習者ほど顕著です。

これらの結果は、mラーニングアクティビティの設計には注意が必要であり、学生は入力スキル（タイピングなど）に十分なトレーニングを受け、順応するための時間を与えないと重要な試験などに使用を避けるべきことを示しています。

Lee, B. J. (2020). Smartphone tapping vs. handwriting: A comparison of writing medium. *EuroCALL Review*, 28巻, 1号 (頁 15～25). <https://doi.org/10.4995/eurocall.2020.12036>

Output of t-tests (word count of paper- vs. smartphone-based writers)					
Level	T	df	p	d	95% CI
A1	4.73**	203	< .001	.66	7.86, 19.08
A2	4.21**	246	< .001	.53	4.33, 11.93
B1	3.03*	250	.003	.38	1.80, 8.49
B2	3.33*	189	.001	.48	2.24, 8.76
B3	1.40	52	.168	.38	-1.30, 7.30

* denotes significance at the $p < .05$ level
** denotes significance at the $p < .001$ level

図2. 英作文の長さ、手書きかスマホによる有意差

今後の展望

現在、以上に述べたテーマを含め、英語の習得と指導のさまざまな側面について研究を続けています。国際的な研究者チーム（米国、英国、および日本）のメンバーたちと一緒に、音響知覚能力と発音の発達にどのような関連があるかを調査しています。

さらに、テクノロジーと言語学習者への認知的影響を研究し続けています。現在取り組んでいるプロジェクトの中には、スマートフォンアプリの開発、筆記用媒体の分析、通信教育（遠隔授業）カリキュラムの開発などがあります。

それ以外に、これからたくさんの方の関連している分野に繋がって行きたいと思っています。現在、脳波反応や視線追跡行動など、言語学習の生理学的側面を調査するための研究助成金を申請しています。

所属学会

JALT - 全国語学教育学会
JALTCALL - 全国語学教育学会、コンピューター利用語学学習研究部会

主要論文・著書

Reinders, H., Lee, B. J., & Bonner, E. (2023). Tracking learner engagement in the L2 classroom with experience sampling. *Research Methods in Applied Linguistics*. doi:10.1016/j.rmal.2023.100052
Lee, B. J. (2022). Listener engagement: The missing link in research on accented speech. *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching* (Mar 2022). <https://doi.org/10.1515/iral-2021-0177>
Saito, K., Kachlicka, M., Suzukida, Y., Petrova, K., Lee, B. J., & Tierney, A. (2022). Auditory precision hypothesis-L2: Dimension-specific relationships between auditory processing and second language segmental learning. *Cognition*, 229(Dec2022), 105236. doi:10.1016/j.cognition.2022.105236
Lee, B. J. (2020). Enhancing listening comprehension through kinesthetic rhythm training. *RELJ Journal* (Online First), (頁 1-15). <https://doi.org/10.1177/0033688220941302>